

地域コミュニティの活性化を目的とした位置情報 SNS の研究

笠原 裕希[†] 松井 加奈絵[†]

東京電機大学大学院 システムデザイン工学研究科 情報システム工学専攻[†]

1. はじめに

現在、都市近郊の地域では都市部で働くサラリーマン世帯の増加により、日中の人口が減少している。このような現象により町会・自治会といった従来型の地域コミュニティの参加率は減少傾向にある[1]。地域コミュニティは災害時において住民の安否確認や初期救護活動、情報の伝達、避難所の運営において重要な役割を果たしている[2]。在住地域の滞在時間が減少している現代社会において、現住地に依存しないコミュニティの形成、コミュニケーションのサポートが必要だと考える。

本研究では、スマートフォンにおける位置情報を利用した地域に着目したアプリケーションを提案、インターフェースを作成し、地域コミュニティの活性化に寄与できるか検証を行った。

2. 関連サービス

2.1. Twitterについて

本サービスでは、140字以内の文章に加え、画像や動画などメディア、お店などのランドマーク、地域のタグをつけることができる。

2.2. Swarmについて

本サービスでは、行った場所を記録するチェックイン機能があり、ライフログとして利用、アプリ内で友達になった人と共有することができる。

2.3. Zenlyについて

本サービスでは、自分の現在地を友達と共有することができ、待ち合わせなどに利用されている。

2.4. Pikmin Bloomについて

本サービスでは、エンターテイメント目的であるが、外を歩くモチベーションにつながるため健康促進としての一面がある。

3. 提案内容

地域コミュニティを活性化するために、携帯端末から取得した位置情報からメッセージおよ

び画像を投稿できる SNS アプリケーションかんばん屋さんを提案する。

3.1. かんばん屋さんについて

かんばん屋さんでは画像や短文の投稿を「かんばん」と定義し、以下の要件を満たすものとする。

- その場で起こった出来事を他の利用者と共有する
- 現在地を表示する
- 現在地周辺のかんばんを表示する

本研究では、Adobe XD を用いてインターフェースを作成し、Web アンケートおよびヒアリングによって効果を検証した。

3.2. かんぱんの閲覧について

かんぱんの閲覧画面を図1に示す。

画面上部に現在地周辺のマップを表示し、現在地のかんばんの位置関係がわかるように表示した。画面下部は周囲のかんばんの内容を表示し、スクロールすることで他のかんばんを閲覧

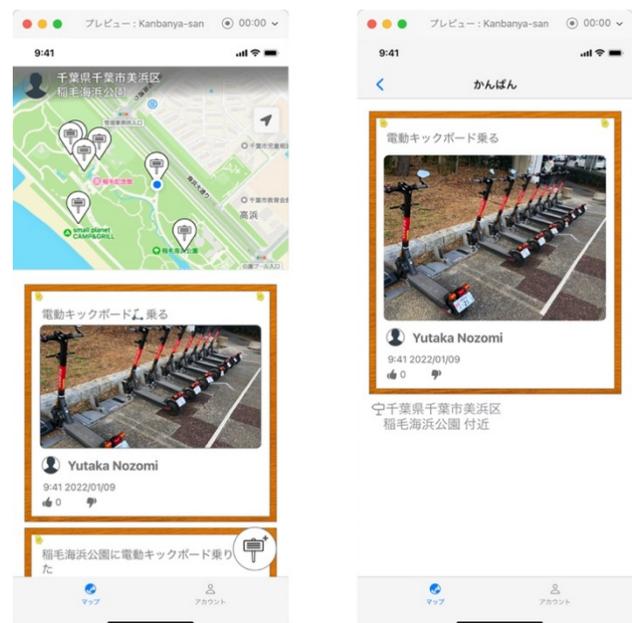


図1 かんばん閲覧画面

A study of geo-based networking for revitalizing the local communities

Hiroki Kasahara[†], Kanae Matsui[†]

[†] Information System Engineering, Graduate School of System Design and Technology, Graduate School of Tokyo Denki University

